

登録コード	J5922200	開講年度	2026			
授業科目	法学特別講義(Environmental Economics and Policy II)				担当教員	YANG JIE
英文授業名	Environmental Economics and Policy II				副担当	YE YANRAN
単位数	2	講義期間	後期	曜日・時限	火曜・3時限	対象学年
講義室	経法401演習室		授業区分	講義	遠隔授業科目	(23カリ対象科目) 経：1年
信大コンピテンシー	非該当					
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」				⇔	【授業の達成目標】
	経法23初（2026改）・応用経済，経法23初・応用経済					
	専門知識を応用・実践する力として，計量的分析手法によるデータ解析を用いたリスクの定量的評価，実験経済学による社会制度の機能の検証，医療や福祉の現場における社会調査の手法を実践した地域の問題発掘，法の経済分析を通じた法制度の効果・影響の検証，などのスキルを習得し，経済の実情に即した政策提言，あるいは企業行動の決定を行うことができる能力を身につける。				⇔	環境経済学のテーマに取り組むための基礎知識と経済学的アプローチについて習得すること
	環境問題，少子高齢化，自然・経済リスクの管理，コーポレート・ガバナンス等の法制度がかかわる問題などについて，現実に関連領域との協力が必要となる。このために，関連する分野の考え方を正しく理解して経済学的分析手法との相違を把握し，経済学の知見を，柔軟にまた建設的に応用できる能力を身につける。				⇔	・ 環境問題に対する経済学的な分析手法を習得することで，現実の環境問題を経済学の視点で分析し，論理的に説明できるようになること ・ 英語資料を活用して情報を集め，分析し，国際的な政策課題を理解・考察できるようになること
(2)授業で学べる「テーマ」	環境共生					
(3)全学横断特別教育プログラム	環境マインド実践人材養成コース					
(4)授業の概要	環境経済学は、経済活動や環境政策が私たちの生活環境に及ぼす影響を分析する分野である。本講義では、英語の文献・政策資料を活用しながら、経済学の視点から環境保全と経済活動のトレードオフを考える基本的枠組みを学ぶ。まず、Environmental Economics and Policy Iの内容を復習したうえで、環境の価値評価と費用便益分析の基礎を扱い、環境政策やプロジェクトの評価にどのように応用されるかについて紹介する。また、気候変動、再生可能資源管理などの環境トピックと、それらに対応する実際の環境政策・政策手段について議論する。最後のトピックとして、環境と健康・福祉との関連について、開発途上国などの事例を取り上げながら考察する。 Environmental economics studies how economic activity and public policy affect the environment we live in. It offers a practical framework for thinking about the tradeoff between environmental protection and economic activity, which appears in major public debates such as climate change, the energy transition, pollution control, waste management, and recycling. In Environmental Economics and Policy II, we will learn basic approaches to valuing environmental benefits and costs and how cost-benefit analysis is used to evaluate environmental policies and projects. Specific environmental topics, such as climate change, renewable resource management, and the related environmental policies and instruments in practice, will be discussed in this course. The course ends with a discussion on the link between environment and human well-being, including examples from developing countries (e.g., environmental health and welfare issues affecting women and children). Classes include short lectures plus active learning activities. For each topic, we will have group or individual assignments, including discussions, short presentations, in-class games, and brief essays. No prior background in economics is required; the course focuses on core ideas, real-world examples, and clear policy reasoning. By the end of the course, students will be able to: ・ Explain core concepts in environmental economics ・ Use basic economic reasoning to analyze environmental issues and the incentives that drive pollution and resource use ・ Compare major environmental policy instruments in terms of efficiency and cost-effectiveness					
(5)授業計画	以下のような5つの具体的なトピックに沿って授業の目標を達成していく 第1回～第3回 Review on Environmental Economics and Policy I 第4回～第6回 The Benefits and Costs of Environmental Protection 第7回～第9回 The Economics of Climate Change 第10回～第11回 The Economics of Renewable Resource 第13回～第15回 Environment and Welfare ※最終回到授業アンケートを実施する。なお、授業の進行状況に応じて授業内容や実施日を変更することがある This course is organized around five specific topics. A course survey will be conducted in the final session. Please note that the course content and schedule may be adjusted depending on the progress of the course.					

(6)成績評価の方法	授業内での複数回課題や小テストで評価する ・ 各回のトピックに応じて、グループまたは個人での課題（ディスカッション、発表、ゲーム、ショートエッセイ等）を行う ・ 課題や小テストは概ね3講義につき1回の頻度で計5回（第3回、第6回、第9回、第12回、第15回）実施する。なお、授業の進行状況に応じて実施回数や時期を変更することがある Assessment in this course is based on a series of in-class assignments administered throughout the semester. Activities will vary by session topic and may be completed individually or in groups. Typical formats include structured discussions, brief presentations, in-class simulations/games, and short essays. Assignments are scheduled approximately once every three sessions, for a total of five assessments (planned for Sessions 3, 6, 9, 12, and 15). The number, format, and timing of assignments may be adjusted as needed based on course progress.
(7)成績評価の基準	下記の基準によって成績を評価する ・ 90点以上：秀（卓越している） ・ 80点以上90点未満：優（かなり上にある） ・ 70点以上80点未満：良（やや上にある） ・ 60点以上70点未満：可（その水準にある） ・ 60点未満：不可
(8)事前事後学習の内容	・ 講義資料の予習と復習、また授業中に提示する参考書や参考資料を講義の前後に読むことが望ましい ・ 身近な環境問題への取り組みを調べ、講義の内容で説明してみよう ※この授業は60時間以上の時間外学習が必要となる
(9)履修上の注意	・ ミクロ経済学や公共経済学、特に「Environmental Economics and Policy I」と関連する内容が含まれるので、関連科目を履修済であるか、あるいはこの講義と併せて履修することが望ましい
(10)質問,相談への対応	オフィスアワーで個別相談可 ・ 事前にメール（yangjie@shinshu-u.ac.jp）でアポをお取りください
【教科書】	指定教科書はなし ・ 配布資料を用いた講義形式 ・ 課題やレポートの提出方法や期限は授業内で指示する ・ 提出物については講義中や別資料にてフィードバックをおこなう
【参考書】	参考書として以下の文献をあげる。個別の参考書や資料は講義中に適宜紹介する ・ 栗山浩一、馬奈木俊介著（2020）「環境経済学をつかむ（第4版）」有斐閣 ・ ニック・ハンレー、ジェイソン・ショグレン、ベン・ホワイ特著、田中勝也翻訳（2021）「環境経済学入門」昭和堂 ・ Nathaniel O. Keohane, Sheila M. Olmstead, Markets and the Environment, Second Edition (Foundations of Contemporary Environmental Studies Series), 2016, Island Press ・ Stephen Smith, Environmental Economics: A Very Short Introduction, 2011, OUP Oxford